

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 11

学校名・団体名	千葉市立幕張西小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	主体的に学び、深め合う児童の育成 ～道徳科の指導を通して～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

① 活動・研究の意義

本校の児童は与えられた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。一方で主体的な面がやや弱いことがこれまで「教育課程の反省」から指摘されてきた。平成29年度には「主体的に考えて行動する場面がこれまで以上に見られるようになってきている。」という児童の変容が現れるようになってきた。主体性は本研究の主題に大きく関係することであり、今後さらなる向上と研究主題の達成を目指し指導を継続したい部分である。授業等での友達との交流の様子を見ると、コミュニケーションの内容や方法にやはり課題が見られた。道徳科の学習を通して、①考えることで自分らしい意見を大切にすること、②友達と積極的に議論し他者への想像力を育てること、③互いの良さを認め合うこと、これらができる児童を育みたいと考えた。

今年度は昨年度から研究主題を継続して取り組んでいる。昨年度の研究によって得られた成果を生かしながら、一方で挙げられた課題を道徳科の校内研究を通して解決することを目指し、更に主題を追究していくこととした。主体的に学び、深め合う児童の育成を目指す校内研究は、これまでの研究を継続、発展させる意味でも意義深いと考える。

② 活動報告

ちゅうでん教育振興助成を受け進められた本校の研究は主に左に示す二つの視点を設けて、4月から年間を通して進められた。また、検証授業を10月と12月に行った。外部からの講師も交えて研究の成果や課題を明確にすることで、研究の方向性を修正していった。

視点1 内容項目の達成に迫る指導方法の工夫
視点2 道徳性を高める振り返りの工夫

視点1については、具体的な指導方法を挙げ、本校の児童の実態と資料の内容を考慮したとき、指導方法としてベストなものはどれなのか、必要な教材は何なのか、などを主に研究した。教材作りに必要な材料準備は助成金を活用して進めた。視点2については、主にワークシートの工夫について研究した。児童が学習の振り返りを行うときに、より自由にそして資料に対して自我関与できるようなワークシートにするにはどのようなものがよいのか試行錯誤した。結果として指導者側がそれらの振り返り資料を、ポートフォリオ評価へとつなげ、指導と評価の一体化にまで高めていけるように体系化し、道徳科の授業を展開した。

次ページには研究のまとめとして作成した研究紀要「研究のまとめ」の一部を掲載する。

実践 4学年 「大きな絵はがき」

主 題 名 友達のことを考えて

内容項目 B 主として人との関わりに関すること 「友情、信頼」

教材の説明 料金不足の定形外郵便をもらった広子が、送り主の友達に忠告するかしないか迷う話である。自分の気持ちを理解してくれるはずという信頼関係、友情について深く考えられる教材である。

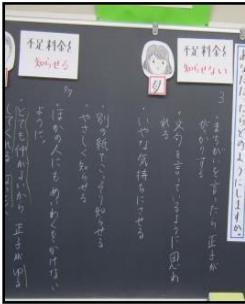
視点1

話し合いの工夫

自分の考えをはっきりさせた。同じくらいの人数なら自由に意見交換、人数が偏ったら少数側が安心感をもって意見を言えるように、少数側から意見を出させ、理由を聞いた。

ねらいに迫る発問

「なぜ、広子が知らせることに決めることができたか」という主発問をすることによって、相手を深く思っていることと、相手を信じる気持ちをもっていることに注目させた。



立場を明確にした板書

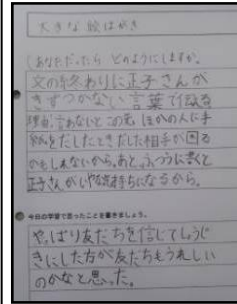
視点2

ワークシートの工夫

1年間を通して同じ形式のワークシートを使用した。上段は話し合いに生かせるように資料についての意見や理由を書かせた。下段は本時の学習で考えたことを書かせることで振り返りをさせた。

振り返るための視点を示す

板書で主題に関連する発言に線を引き注目させた。主発問で主題に迫り、「信じること」「友情」という言葉を引き出して示した。



ワークシート

成果と課題

- 全体での話し合いでは、人数の少ない立場の児童から始めることで、自分の意見をしっかりと話すことができた。
- いつも同じ形式のワークシートを使うことで、何を書かなければならないかを迷うことがなく、どの児童も自分の考えを書き、スムーズに学習できた。
- 主発問や板書を工夫することで、「友情」について深く考えることができた。
- 多様な考えを引き出すためには、全体での話し合いの前に小グループで話し合う場を取り入れてもよかった。
- 教材の提示の仕方としては、教材を最後まで示すのではなく、途中までにする方法も考えられた。

研究を振り返って

○成果 ●課題

視点1 内容項目の達成に迫る指導方法の工夫

学習指導要領の改訂によって道徳科に求められた「質的転換」について視点を設定した。児童の実態を十分考慮したうえで、具体的にどのような指導方法を行い、それによって内容項目を達成することができるのか、多様な指導方法から選択し、指導していくこととした。

○役割演技を取り入れたり、絵本を教材として使用したりしたことで、児童が登場人物の心情に迫り自我関与ができ、道徳的価値の理解を深めることにつながった。

●道徳的価値にかかわる問題や課題を主体的に解決するために、主発問の吟味が大切である。「児童自身の考えの根拠を問う発問」「問題を自分のこととして考えることを促す発問」「道徳的価値の意味を考えさせる発問」等、児童の資質・能力を養うためにどのようなものを主発問とすれば内容項目の達成に迫れるのか、継続して研究していく必要がある。

視点2 道徳性を高める振り返りの工夫

児童が振り返りを行う際、学習内容を自分のこととして考えたり、友達の意見から考えを発展させたりするなど、内省しながら心の成長につなげられるようにしていく必要があることから視点を設定した。

○各学年が児童の発達段階に合わせたワークシートを作成し、年間を通して使用することとした。そのことによって、記述内容が少しずつ「既知の価値理解が深まったもの」「一面的な見方が多面的・多角的に発展したもの」「道徳的価値の理解を自分とのかかわりの中で深めたもの」等、児童が考えを深め、自己評価をすることにもつながるものとなってきた。

●答えが一つではない道徳的な課題を、児童一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合うことが難しかった。そのため、自分の振り返りをワークシートに表現できない児童もいた。児童が課題に自我関与しやすくなるよう、そして自由に自分の考えを表現できるワークシートになるよう再考が必要である。